

令和6年度 授業改善推進プラン

青梅市立西中学校

教科名

英語

科

1 生徒の実態

1年	2年	3年
○約75%の生徒が、授業で挙手や発言をする等、積極的に取り組もうとしている。 ○約85%の生徒が予習や復習等に取り組んでいる。 ○定期テストの結果から、約6割の生徒が基礎的な内容を身に付けている。 ○英語を話すことや読むことに対しては積極性が高いが、感覚で学んでいる部分が多く、書くことが苦手な生徒が多い。	○77%の生徒が授業で挙手や発言をする等、積極的に取り組もうとしている。 ○81%の生徒が予習や復習等に取り組んでいる。 ○定期テストの結果から、約65%の生徒が2年生の1学期に扱った内容については基礎的な力を身に付けている。 ○考える力に課題がある。 ○1年生の基礎が定着していない生徒が多い。	○7割の生徒が授業で挙手や発言をする等、積極的に取り組もうとしている。 ○7割程度の生徒が授業内容を理解している。 ○場面に応じて英文を作る力に課題がある。 ○1・2年生の学習が定着している生徒と、定着していない生徒に大きな差がある。

2 指導上の課題

1年	2年	3年
○既習事項、特に基礎的な内容を定着させる必要がある。 ○家庭学習に毎回きちんと取り組ませる必要がある。 ○単語や英文を書くことへの抵抗感を減らし、書く力をつける指導が必要である。 ○学力差があるため、個々の能力に応じた学習機会を設定する必要がある。	○既習事項、特に基礎的な内容を定着させる必要がある。 ○習った文法や表現を生徒が整理し、活用できるように指導する必要がある。 ○具体的な場面設定の中で英語を活用することで、思考力・判断力・表現力を身に付けていく必要がある。 ○学力差があるため、個々の能力に応じた学習機会を設定する必要がある。	○授業での発問に積極的に答えようとする姿勢を育てる必要がある。 ○既習事項、特に基礎的な内容を定着させる必要がある。 ○具体的な場面設定の中で英語を活用することで、思考力・判断力・表現力を身に付けていく必要がある。 ○学力差があるため、個々の能力に応じた学習機会を設定する必要がある。

3 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
○既習事項を授業の中で繰り返し使用することやパフォーマンステストを通して、定着を図る。 ○毎回の家庭学習の点検と、呼び掛けを強化する。 ○語句について、毎授業での練習と週に1回の小テストを継続して行う。 ○1人1台端末を活用し、音読練習、Kahoot など個々に応じた学習の時間を設定する。	○リスニング教材の帯活動や週に1回語句の小テスト、毎回の家庭学習により、基礎・基本の定着を図る。 ○既習事項を授業の中で繰り返し使用する。 ○思考力・判断力・表現力を高めるために、生徒にとってわかりやすい場面設定をし、言語活動を行う工夫をする。 ○1人1台端末を活用し、音読練習、Kahoot など個々に応じた学習の時間を設定する。	○リスニング教材の帯活動や英単語テスト、授業毎の宿題により、基礎・基本の定着を図る。 ○既習事項を授業の中で繰り返し使用する。 ○思考力・判断力・表現力を高めるために、生徒にとってわかりやすい場面設定をし、言語活動を行う工夫をする。 ○1人1台端末を活用し、音読練習、Kahoot、padlet など個々に応じた学習の時間を設定する。